

令和2(2020)年「正覚寺報」11月号

お知らせ

コロナは、なかなかおさまりをみせませんが、用心をし、きちんとマスクをすれば、出て行って大丈夫というのが、世間の見方になって参りました。多くの営みが、体温を測り、手指をアルコールで消毒し、マスクをして居さえすれば迎えてくれます。季節性インフルエンザのワクチン接種だけは忘れないようにしましょう。

記

仏教壮年会お聴聞の会(11月1日(日)20時)

仏教婦人会例会(11月16日(月)19時半)

グランドゴルフ(11月29日(日)五人参加)

「報恩講」から

去る10月24日&25日の両日、不死川(しなずがわ)昌史布教使を大阪から初めてお迎えして正覚寺報恩講を営ませて戴きました。

両日とも皆様にお運び戴き易い晴天に恵まれました。愛知県のお寺の次男坊でいらっしゃったお客僧は、行信教校(ぎょうしんきょうこう)に十三年間の長きに亘って学ばれました。高槻の隣、摂津富田のお寺常見寺にある空華学派の由緒ある僧侶養成学校です。

行信教校に行くとなると一人凄いのが居るといのが住職の印象でした。その不死川師とは、十年以上昔の行信教校でのご縁であります。

住職のご本山の殿試(でんし)では、行信教校校長でもいらした梯 實圓和上による「聞信義相」の口頭試問でした。そのとき残った疑問点を次の行信教校の受講機会に不死川師にお訊ねした程です。

毎年北海道に出向いていらっしゃるご法縁先からお葉書を頂戴していただいたのに一向にお招きできないまま気になって居たのですが、この度漸くお迎えでき、やっと喉のつかえが取れたというのが住職の実感です。

ご出講に際して「三座の御法話は、何席にされますか」と事前にお訊ね戴きましたので、御言葉に甘え、初日の大逮夜は、二席にさせて戴きました。これは正覚寺初めての出来事でした。当日お参りの皆様は殆どの皆様が二席ともお参り戴きました。

今回の報恩講では、二年前の継職法要で住職となった高島組通安寺の大塚泰仁ご住職には二日とも駆けつけて戴きました。

来る11月7日&8日ご予約の通安寺様報恩講の御法話に住職はお招き戴きました。

お話は何年来温めてきた話題になります。ご本願叶ってお名号となって衆生をお救い下さる阿弥陀様のお徳をお讃(たた)えになる第十七願の諸仏の名号讃嘆の大悲のお心を手を変え品を変えてお伝えしてまいります。

今生に人間のご縁を戴いた方なら一人の例外もなく戴いてきた諸仏如来のお慈悲、

「おすがたこそは声なんです」

「なむあみだぶの居り場が知れた」

「救いの御名のほとけさま」

「させていただく近江商人」

等の中から、第十七願の名号讃嘆のお心をお伝えし、「ふとあおぎみるおすがた」を皆様とご一緒に歌わせて戴いて参ります。合掌。